

ご愛読をいただいております「生涯学習」は、今回をもって500号を迎えました。昭和49年4月「社会教育しもすわ」として第1号が創刊されて以来41年間、時代の波や要望を受けながら、改称や紙面統合などを繰り返してきました。500号までの歴史を振り返ることによって、時代に適した「生涯学習」のあり方を深めてまいりたいと願っています。また、当時の文章を一部分ではありますが、紹介いたします。これからも、町民の皆様にご愛読される紙面づくりに心掛けていきたいと思っております。

1号「社会教育しもすわ」〈昭和49年4月〉

教養の一助に活用を 町長 青木健一 *一部引用
従来それぞれの機関から発行されていた公民館報・博物館報・青少年シリーズの三紙を統合して「社会教育しもすわ」の一紙にまとめた。これは時代的要請にこたえて大所高所から社会教育を見なおし、その刷新をはかろうとするもので、その意義は深いものである。住民の皆さんが今後これを一層活用されて各自教養の一助とされ住民相互の連帯感を深めることを切望してやみません。



240号「生涯学習しもすわ」〈平成6年4月〉

*紙面が、B5版8ページからA4版8ページとなる。
*1ページ目に、次のような説明文あり。
「社会教育しもすわ」は生涯学習時代に対応して、「生涯学習しもすわ」と改題しました。



351号「生涯学習しもすわ」〈平成15年8月〉

広報紙を統合しました 町長 高橋文利 *一部引用
新しく模様替えした広報紙の今月号はいかがですか。これまでは町が「広報しもすわ」、町教育委員会が「生涯学習しもすわ」をそれぞれ別々に毎月発行していたうえに、町社会福祉協議会が「社協だよりしもすわ」を年五、六回出していました。これを一冊に統合して「月刊クローズアップしもすわ」としたわけです。



*三紙が統合されたので、最初のページには「生涯学習」のタイトルをつけ、バックの絵は吉澤大淳先生にお願いした。

401号「生涯学習しもすわ」〈平成19年9月〉

*「生涯学習」の最初のページのタイトルを、横から縦に変更し現在に至っている。「広報」のページに合わせて、統一したと思われる。



素晴らしきかな信州

そして下諏訪

東四王 上脇 邦子



今月号で「生涯学習」は五百号を迎えた。約四十一年余りの間、幾人もの教育長や編集長、

町生涯学習係、編集委員の協力と努力があり今まで続いている。私も微力ながらそのお手伝いの機会をいただき、思い出深い年月となり感謝している。

私は他県出身のために、信州や下諏訪町の歴史や文化、風土や食べ物、日々の生活の工夫などまったく知らないことばかり。寄せられる皆さんの原稿の内容に毎回感心した。私にとっては聞くもの全てが新鮮で、たくさん

編集委員として私の心がけたことは、いつも読者の目線、加えて下諏訪町のことを知らない県外者の目線で考えてみるということだった。

また小学校高学年や高齢者も含めた読者に伝わりやすいか、文字の大きさや写真の配置などにも気を配る。

月の声やほのぼのの欄、サークル紹介、裏表紙の信州の花々、鳥の生態など、毎月読者の一人として心待ちにした。

月の声読んだよ、ほのぼのの記事に胸が熱くなったよなどと感想を聞くと嬉しかった。また若い人達にも目を通してもらうにはと、若い執筆者探しに骨折ったことも良い思い出だ。

諏訪湖端の美しい桜紅葉が散り身の引き締まる冬。凜とした空気、辺りの山々の研ぎ澄まされた姿、その深さに吸い込まれてしまいうような夜空。そこに瞬く星々の美しさは他の地では見られない。信州のきりつと凍りつく大気あつての星の美しさだ。雪が解けると、弾けたようにいつせいに草花が芽を吹き出し生命の強さ美しさに感謝せずにはいられない。

やがて花々は満開になり春と夏が同時にやって来て、木々の葉や葉裏の緑色の豊富さに私は何年経っても感動している。風がそよぐたびに、魔法のようにさまざまな緑色を見せてくれる。確かな季節の移り変わりを感ぜられるこの地で、この信州で生活する幸せを身に沁みて思う。

結婚と同時にこの素晴らしい地に住み、生まれ育った地より長くなった。もう私の終の住処であり故郷である。人生の終わりを迎えても、大好きな富士山を望む諏訪湖や八ヶ岳連峰を見

下ろしながら、天からこの地を見守りたい。自然界の恵みを豊かに受けている我々の下諏訪町。この素晴らしさをいつまでも大事にして感謝しつつ、さらに、生きていくことが楽しい町となるように皆で知恵を出し合い工夫していきたいものである。「生涯学習」がその助けになれば幸いであり、より深い内容で人々の心に残るページとなることを祈っている。

